

四宮さま

英霊を祀る社 〜良城神社〜

吉敷は明治維新に

関わっていた！

吉敷と長州征討

慶応二年（一八六六）六月、長州藩と幕府との間で第二次長州征討、いわゆる四境戦争がはじまりました。

そのころ、吉敷には、吉敷毛利家第十三代毛利元潔公の命により良城隊が編成されていて、芸州口（今の岩国市の県境付近）で幕府軍と戦いました。

激戦の末、長州藩は幕府軍に勝利しましたが、良城隊にも、戦死者が出ました。

元潔公は、同年十一月に、戦死した人の御霊を鎮めるために、吉敷佐畑の天神山に墓碑を建立し、招魂社を設けました。

ここでは、毎年四月十九日に慰霊祭が行われました。この招魂社が、良城神社のは

じまりです。

全国最初の招魂社（招魂場）は、慶応元年に高杉晋作が騎兵隊の戦没者のために下関に設けた桜山招魂場（現桜山神社）です。

全国の戦没者を祀る神社としては、明治二年に東京招魂社として創建された、現在の靖国神社が有名です。

また、山口県出身の戦没者が祀られている山口県護国神社が宮野に鎮座しています。

国のために殉難した吉敷人

吉敷の招魂社には、四境戦争だけでなく、維新前後の戊辰戦争、西南戦争、萩の乱、日清、日露戦争そして先の大戦に至るまで、近現代の戦役で祖国のために尊い命を捧げられた吉敷の人々の御霊が祀られています。

吉敷招魂社は、戦前には、国が管理する特別の招魂社でした。

戦後は、国の管理を離れ、良城神社と改称し、吉敷自治会の役員の方のお世話により運営されていました。

戦後もしばらくは、四月十九日の祭日には幟が立ち、競馬などが行われるなど盛大に執り行われていたといい、小学校も休みになっていました。

現在では、良城神社の祭日にあたる四月十九日にあわせて、自治会、遺族

会などの皆さんにより、吉敷地区の慰霊祭が催行されています。

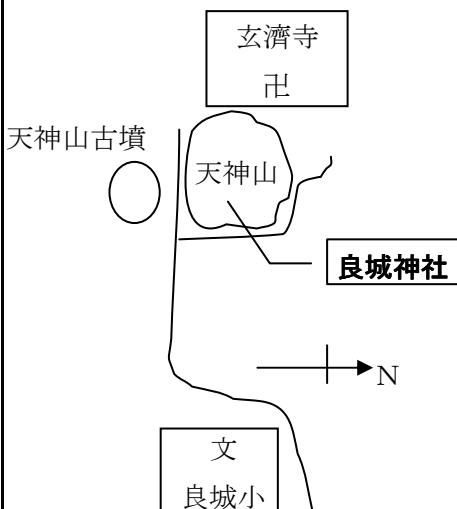
平和のための慰霊祭

この吉敷地区慰霊祭は、こうした吉敷の歴史と深く関わる大切な地区行事の一つです。

形は変わりながらも、今もなお執り行われているということは、私たち地区民の心の財産とも言えます。

地域の代表者や様々な方面の方々の参列を得て、戦乱で尊い命を落とされた人々を悼み、御霊の平安に祈りをささげる慰霊祭が厳かに執り行われ続け

天神山への案内図



ていることは、ここに祀られている戦没者やそのご遺族にとって、意義深いことと察します。

一方で、昨今、過去の悲惨な戦争体験を耳にすることが少なくなる中で、こうした慰霊の行事を通じて、私たちの今の時代が尊い犠牲の上に成り立っていることに感謝し、平和の礎となられた御霊に思いを馳せ、人類が再び過ちを犯すことのないようこれからの恒久平和を誓い続けていくことは、今を生きる私たちにできる平和への一つの役割ではないでしょうか。

いろいろな歴史が眠る天神山

天神山には、良城神社境内をはじめ、あちこちに、吉敷の歴史を物語る史跡がひっそりとたたずんでいます。

また、付近には、吉敷毛利家の菩提寺であった玄濟寺や五世紀前半ごろの遺構の天神山古墳があります。

是非一度、ご家族で散策してみてもいかがでしょうか。

なお、良城神社は、赤田神社の宮司と責任役員が就任しています。今後、英霊の顕彰と平和への祈りを続けていきたいと考えていますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。

